

鈴木まさと は、こんなことを考えています。

私は、伊豆市に日々暮らし、生業を営んでいる人たちが、活力を取り戻し、将来に渡って「住みやすく安心して暮らせる環境を整えること」が、まず何よりも大切なことと考えます。

立派な施設を整備することよりも、そこに住む人たちが心にゆとりをもっていなければ、来たる「東京オリンピック・パラリンピック」のおもてなしも叶わないと考えます。

そして、さらにその先にある、『市民がお互いを理解し、支え合い、共に生きる「共生社会」を実現する』ためにも必要なことであると思います。

また、都会に住む人たちが憧れる「豊かな自然」や、長年受け継がれてきた「歴史や文化」など、このまちに住む私たち自らが、その良さを再認識し、再発見することが何よりも必要であり、さらにその宝を私たちが磨き上げ、訪れる人々の感動をよび、その結果 まちの経済が好循環する仕組みをもう一度再生することによって、いまここに暮らす人たちが心地よさを感じ、そして次世代に繋ぐことができる私たちの心の通う素晴らしいまちができあがると信じています。

その為には、市民の皆さんと行政が、思いを共にしなければなりません。

今こそ、『市民の皆さんの日々の暮らしに寄り添い、共に生き、市民とともにつくる市政』を取りもどすことが、必要なのではないのでしょうか。

鈴木正人

鈴木まさとの市政5策



①市民とともにつくる市政への転換と適正な財政運営

- 政策立案、事業決定に**市民の声**を十分に反映させ、経過（プロセス）を検証できるように**透明化**
「公文書は市民の財産」の視点から、公文書のありかた・仕組みを**再構築**
- 事業の**ムダ**を省き、**適正な財政運営**と予算の執行
※伊豆市の市債（借金）残高→約**230億円**（平成30年度末 一般会計・特別会計あわせて）
※伊豆市の市税収入→約**40億円/年**

②市民ぐるみで支える教育環境の充実

- 「**地域**とともにある**学校**のありかた（学校再編）」について、**まず**地域住民を含む市民への**丁寧な説明**と**多様な市民の声**に広く**耳を傾ける姿勢**を徹底
- 土肥小中一貫校（義務教育学校）の良さを**積極的に発信**し、定住にもつながる市内外からの**留学制度を導入**
- 教育費の負担軽減**など、次代を担う子どもたちへの**積極的な投資を推進**
- ICTの導入など**学校教育環境の整備推進**と教職員の**負担軽減の環境づくり**を推進
- 学校運営を**ささえる地域の活動**を積極的に支援

③市職員が力を発揮できる環境づくり

- 「**市職員も市民!**」職員の声を市政に活かす
- 行政の**スペシャリスト**としての能力を**発揮できる職場環境づくり** → 市民に**信頼され、愛される**行政へ

④地域の資源を活かしてまちの活力を取り戻す

- 歴史ある温泉街**の景観整備などにより、その魅力に**磨き**をかけ、**地域の活力を再生**
- 「わさび」、「原木シイタケ」、「梅」、「白びわ」、「ところてん」、「イズシカ」など**地産の優れた製品の積極的な国内外へのプロモーションの推進**
- 豊富な森林資源の保全と活用を推進し、「**バイオマス発電**」や「**小水力発電**」などによる**エネルギーの地産地消を推進、新たな産業と雇用の創出**
- 自社製品の開発、生産性向上の為の**先端技術の導入**など、**挑戦する企業**への積極的な支援

⑤暮らしに寄り添い共に生きる社会の実現

- 年齢・性別・障がいに関係なく、市民がお互いを**理解し、支え合う**暮らしやすい環境づくり
- 市民の生命・財産**を守り、市民の暮らしを支える**社会基盤（インフラ）の整備推進**と医療・介護体制の**充実**
- 伊豆の地域医療に欠かせない「伊豆赤十字病院」、「中伊豆温泉病院」の**存続**
- 交通弱者**（子ども、お年寄り、障がい者）が**安心して気軽に利用できる**交通システムの確立